

ユネスコ世界記憶遺産登録記念 朝鮮通信使随行画員展

画員たちは どんな絵を描き残したか

2018年12月5日(水)～2019年2月3日(日)

日本の通信使にゆかりのある自治体などをつくる「朝鮮通信使縁地連絡協議会」(縁地連)と韓国の「釜山文化財団」が歴史資料111件、333点を共同で申請し、ユネスコの「世界記憶遺産」に登録されました。

江戸時代260年間、日本と平和的な友好関係の象徴として12回にわたって朝鮮通信使が来日しました。そのたびに、朝鮮を代表する画員が随行し日本人との豊かな交流がありました。記憶遺産に登録されたもののなかには、かれらが日本で描いた絵や朝鮮で描いた絵、日本の画家が描いた絵もあります。

高麗博物館では2013年に「朝鮮通信使随行画員展 一画員たちはどんな絵を描き残したか」を開催しました。今回、世界記憶遺産登録にちなんで改めて展示しますのでぜひご来館ください。

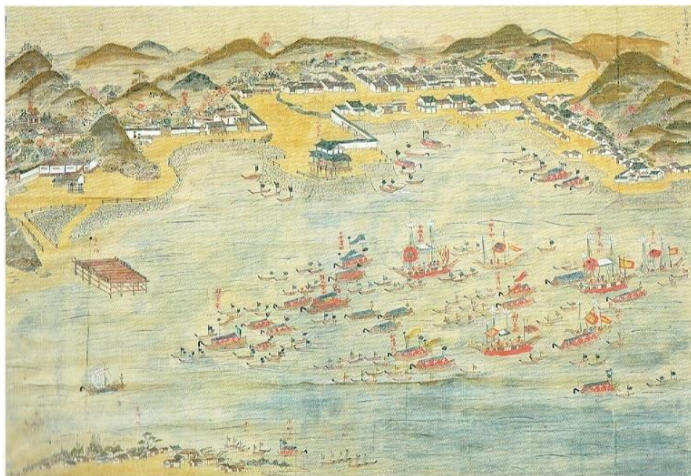
入館料：一般400円 中高生200円



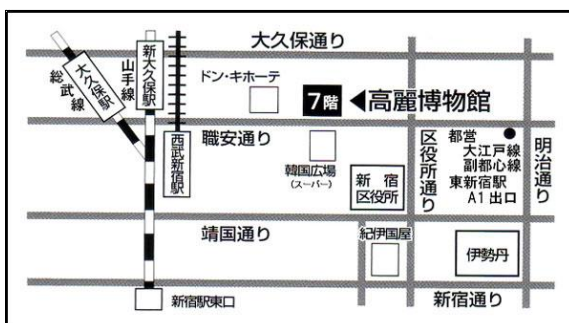
洛山寺(ナクサンサ)屏風

静岡市興津 清見寺蔵

第11回朝鮮通信使に随行してきた画員・金有声(キムウソン)が、清見寺に似ているとして描いた洛山寺



通信使船上関来航図 伝 田能村竹田
山口県上関町 超専寺蔵
上関長島に入港する6隻の通信使船に
帆走する長州水軍など日本の船655隻、
総人数4567人。(世界記憶遺産)



東京都新宿区大久保 1-12-1 韓国広場ビル7階

開館時間 12:00～17:00

休館日 月曜日・火曜日、年末・年始

TEL:03-5272-3510 FAX:03-3207-0533

E-mail : kh@kouraihakubutsukan.org

url: <https://kouraihakubutsukan.org/>